

二〇二三年度

一般入試 第二回

国語

二月十二日実施

【注意事項】

- ① 開始の合図があるまで、冊子を開いてはいけません。
- ② 試験時間は五〇分間です。
- ③ 問題は一ページから十四ページまであります。
- ④ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ⑤ 下敷きは使用できません。
- ⑥ はじめに、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。
- ⑦ 質問がある場合は、挙手をしてください。

※設問の都合上、文章の一部を改変しています。

※解答に字数の指定がある場合は、特に指示がない限り、句読点なども一字に数えて解答しなさい。

「二」 次の①～⑦の傍線部の漢字の読みをひらがなで答え、⑧～⑮の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- | | | | | | |
|---|--------------|---|----------------|---|----------------|
| ① | 試合に惜敗する。 | ② | 教科書を改訂する。 | ③ | 氷上は滑りやすい。 |
| ④ | 講演者が登壇する。 | ⑤ | 後輩を励ます。 | ⑥ | 夢と現実が交錯する。 |
| ⑦ | 豊潤な土地。 | ⑧ | ソツセンして支援する。 | ⑨ | 美しい景色に目をウバわれる。 |
| ⑩ | 樹液をチュウシュツする。 | ⑪ | 必要な部分をバツスイする。 | ⑫ | キンパクした空気に包まれる。 |
| ⑬ | 事実をフせる。 | ⑭ | とてつもないヒアイを味わう。 | ⑮ | シヨウダク書を提出する。 |

「二」次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現代の人間社会は、知識を中心に動いています。学校教育を見ても、それは明らかでしょう。日本だけでなく、世界の多くの国でも、知識を身につけさせる教育ばかりです。

ちなみにヨーロッパでは、一七世紀の初めに哲学者のフランシス・ベーコンが「知識は力なり」といいました。その言葉どおり、ルネサンス以後のヨーロッパは「知識の時代」になったのです。一方、ほぼ同時代の※デカルトは「我思う、ゆえに我あり（コギト・エルゴ・スム）」という有名な言葉で「思考の時代」の到来を示しましたが、基本的には今日にいたるまで「知識の時代」が続いているといえるでしょう。知識は思考の前提になるものだからです。

A 人間が新しいものを生み出すためには、知識（およびそれに基づく思考）だけでは足りません。もうひとつ必要なものがあります。

「経験は最良の教師である。ただし授業料が高すぎる」

一九世紀に、イギリスの歴史家トーマス・カーライルがこういう警句を発しました。私もこの経験こそが、人を育てるのに不可欠だと思います。知識・経験・思考の三つが融合されないと大きなことはできません。

B 知識が不要だというわけではありません。しかし知識は基本的に過去のものですから、情報としては半ば死んでいます。**C**、いくら多くの知識を集めても、そこから新しいものを生み出すのは難しい。物知りが新しい価値を生み出すとはかぎらないのは、大学の教師を見ればわかります。私の見るかぎり、彼らは一般人と比較にならないほどの知識量を持っています。それにもかかわらず、ものを考える力は決して高くありません。五〇歳ぐらいになると、むしろ平凡な博学の人になってしまふのです。それは、知識にだけ頼って経験を軽んじているからでしょう。別のいい方をすると、生活をバカにしています。生活など余計なことだと考えているから、俗事を避け**①象牙の塔**にこもって専門分野の本ばかり読んでいるのです。そうやって知識さえふやせば偉くなれると思っているのですが、実際にはそのうち頭が老化してきて、新しいことを考えられなくなる。リレーのランナーのように次の世代に知識のバトンを伝えることはできませんが、**②そこに自分のオリジナリティを付け加えることはできません。**

一方で世の中には、実際に仕事をしながら生活の中で多くのことを覚えていく人たちがいます。汗水垂らして働き、経験を積むことによって知恵や技術を身につけ、人間としても成長する。知識中心の人たちは、それを無学な人と軽んじてきました。「i」が

つての知識階級は基本的に恵まれた立場にあり、労働らしい労働もしない生活をしていて、そちらのほうが高級だと思ったのです。そんなわけで、これまでの社会では知識の人と経験の人がある種の対立関係にありました。そのため、知識と経験が融合することもありません。

近代以降の学校教育は、知識のほうを重視しました。知識をたくさん身につければ立派な人間になると考えたのです。それも、当たり前の知識ではなく、ふつうの人の知らない知識のほうがより価値があると考えました。したがって、みんなが受ける初等教育には大した価値を認めません。大学を頂点とする高等教育を受けた人間こそが偉い、という発想です。

③ヨーロッパでも日本でも、近代以降、知識の時代が続いているのは、社会の根底にこういう発想があるからでしょう。初等教育から高等教育まで知識しか教えないのですから、知識派の社会になるに決まっています。

近代以前の社会では、経験派の教育システムが存在していました。たとえば「ii」職人として生きていく人たちは、学校ではなく親方のところに弟子入りして技術を積んだのです。英語ではそれを「※アプレンティス（徒弟、見習い）」と呼び、このアプレンティスが七年ほど※年季奉公をすると、※日当をもらえる「※ジャーニーマン」になります。そこからさらに経験を重ねると、「※マスター」となって自分がアプレンティスを抱えることができますようになります。手仕事には、こうした経験の序列が明確にあつて、職人は学校と無縁なところで一人前に育っていきました。

ところが近代以降はこの経験の段階が否定され、誰もが学校に入つて教育を受けるようになります。知識さえ身につければ、いちいち経験を積まなくても一人前の人間になると考えた。知識は過去に先人たちが経験したことの結晶ですから、それさえあれば各自が経験に時間をかける必要はない、という考えです。

しかし、ここで無視されたのは経験だけではありません。経験を積む場としての生活も脇へ追いやられました。昔の職人の場合、アプレンティスはマスターのところで寝食を共にし、日常生活の中でさまざまなことを学びます。一方、学校教育にはせいぜい給食の時間があるくらいで生活というものがありません。教室という非日常的な空間に子供を押し込めて、決められた時間の中で知識を与えるだけです。

「iii」教師は生徒にほとんど思考する時間を与えず、一方的に知識を記憶させるばかり。ちゃんと記憶したかどうかをテストでたしかめます。点数が悪くてはいけませんので、当然、生徒たちは知識の記憶競争にかり立てられます。そこで優秀な成績を収めた人が学校教育のマスターとして教師になり、次の世代にまた知識を与えるわけです。このくり返すから、どこにも生活はありません。学校の勉強さえできれば良いと考えているわけです。

知識万能は誤った考えだといわざるを得ません。人間は、知識だけで生きていけるわけではないからです。生活を通して得る経験や技術がなければ、④まっとうな人間にはならないでしょう。

この生活の重要性について近代日本で最初にはつきりと指摘したのは、※菊池寛でしょう。作家として活躍し、のちに文藝春秋社を創設した実業家です。彼が掲げたモットーは、「生活第一、芸術第二」というものでした。学芸という言葉もありますように、この「芸術第二」には学問も含まれていると考えていいでしょう。

菊池寛の周辺には、⑤芥川龍之介のような作家をはじめとして、芸術や学問を第一に考える友人が大勢いました。そういう中であって「生活第一」を堂々といふ放つのは、かなり勇気のいることです。

事実、「菊池は俗物だからあんなことをいうんだ」と軽蔑する人もすくなくりました。それはそうでしょう。当時の「iv」※インテリにとって大事なものは、学問、芸術、知識であって、生活は取るに足りないものでしかありませんでした。日露戦争のときに、自国が戦争をしていることを知らずに研究室で勉強し続けた「v」学者がいたそうですが、インテリたちにとっては、それこそが尊敬すべき⑥学者の鑑だったのです。生活者から見れば世間知らずですが、現実とは無関係に別世界で自分を鍛えるのが立派な人間だと考えました。

そういう⑦知識第一主義の価値観は、現在でも生きています。たとえば企業の採用試験でも、問われるのは基本的に知識です。面接試験でいくらか人となりを見るとはいえ、表面的なことしか見えません。学歴を重視し、知識偏重といえるでしょう。

そうやって採用した優秀な人材にいき仕事させてみると、思ったほどの結果が出ない。それも当然で、研究所のような部署を別にすれば、一般企業で学校で学んだ知識が求められる仕事はそう多くありません。ほとんどの仕事は、Iが物をいいます。それを無視した学校教育の優等生に、いきなり仕事で結果を出すことを期待するほうが間違っているのです。

そのことを菊池寛は「生活第一」という言葉で指摘していたわけですが、日本の企業人や大学関係者も、ようやくそれに気づき始めたのでしよう。たとえば近年、学生にボランティア活動などを推奨する動きが盛んになってきたのも、あまりに没生活的だった知識第一主義への反省から来たことだと思います。

もちろん、学校で教える知識がまったく無用だというわけではありません。知識は、人類が長い歴史の中で作り出した大切な遺産です。

とはいえ、コンピュータやインターネットの普及によって、単に知識を手に入れることが昔ほど価値をもたなくなっただけのも事実

でしょう。知識はうまく使えば大きな力になりますが、その使い方を身につける上でも生活による経験が必要です。生活から遠く離れたところでまとめた知識は、いくらたくさんあってもあまり価値がありません。

かつて、二種類以上の百科事典が出版されないと、その国は知的な水準が低いと見なされていきました。ちなみに、日本は戦後そうなりましたが、まだその段階に達していない国がすくなくありません。それはともかく、どんな物知りでも百科事典の知識量を上回ることはできないので、⑧百科事典が登場した時点で知識第一主義は崩れているはずだ。

さらに最近ではITの発達で、ますます知識を記憶しておく必要がなくなりました。こうなると、生きていく上で本当に必要な知識と、知識のための知識を区別しなければいけません。何でもかんでも頭の中に記憶して、必要なときに取り出すことというのは、もはや第一義的ではなくなりました。コンピュータが代行してくれます。

さらに、高等教育を受ける人がふえたことも、知識の価値を相対的に下げているといえるでしょう。昔の社会は「経験人間」が大多数でした。「知識派」は少数派だったからこそエリートとしての価値があったのです。ところが最近では、半数近くの人が大学（学部）まで進学するようになりました。こうなると、大学出に希少価値はありません。

しかも大半の学生は、勉強して知識を身につけるためではなく、大卒という資格を得るために大学に進んでいるように見えます。社会がそれに特権を与えるからでしょう。たとえ知識が身につけていても希少価値がなくなっているのに、その知識さえもまたない大卒がふえているのですから、学歴で人材を採用するのはバカげているとしかいようがありません。

―外山滋比古『考えるということ』による―

(注) ※デカルト…フランスの哲学者。

年季奉公…年限を決めて他家に住み込んで、家事家業に従事すること。

日当…一日にいくらと定めて支払う手当。

アプレンティス／ジャーニーマン／マスター…一九六四年に英国で制度化された徒弟制度で、「アプレンティス」は見習い、「ジャーニーマン」は職人、「マスター」は熟練職人のこと。

菊池寛…芥川龍之介と同時代の作家、劇作家、ジャーナリスト。文藝春秋社を興した実業家としての側面もある。

インテリ…知識階級。学問・教養がある人。

問一 **A** **C**に入る適当な語を、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア したがって イ あるいは ウ しかし エ たとえば オ もちろん

問二 傍線部①「象牙の塔」は何の比喩か。適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 現実から逃避するような学者の生活や、大学の研究室などの閉鎖的な社会。
イ 地位の高い人が手に入れる、誰にも何も強制されることのない環境。
ウ 周囲から求められるものと、自分の欲するものが一致した理想的な境地。
エ 芸術家が生涯追い求めても手に入れられないような、完成された美しい空間。

問三 傍線部②「そこに自分のオリジナリティを付け加えることはできません」とあるが、それはなぜか説明しなさい。

問四 傍線部③「ヨーロッパでも日本でも、近代以降、**く**発想があるからでしょう」とあるが、ヨーロッパや日本における教育が近代以降にどのように変化したと筆者は指摘しているか。五十字以内で「知識・経験・生活」の三語を使って説明しなさい。

問五 傍線部④「まっとうな」・⑥「学者の鑑」の意味として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

④「まっとうな」

ア 正直な イ きちんとした ウ 礼儀正しい エ 優秀な

⑥「学者の鑑」

ア 学者の姿そのもの。 イ 学者の規律となるもの。
ウ 学者を理想とすること。 エ 学者の模範となるもの。

問六 傍線部⑤「芥川龍之介」の作品として**誤っているもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鼻 イ 羅生門 ウ 蜘蛛の糸 エ 地獄変 オ 坊っちゃん

問七 傍線部⑦「知識第一主義」に**当てはまらないもの**を文中の二重線部「i」～「v」の中から一つ選び、記号で答えなさい。
「i」 かつての知識階級 「ii」 職人 「iii」 教師 「iv」 インテリ 「v」 学者

問八 Iに入る言葉として適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 学問や知識力 イ 経験や生活力 ウ 礼儀や忍耐力 エ 学歴や学力

問九 傍線部⑧「百科事典が登場した時点で知識第一主義は崩れているはずです」とあるが、百科事典のほかに「知識第一主義」が崩れる原因になったものを文中の語を用いて二つ答えなさい。

問十 次の(1)～(4)について、本文の内容に合うものは○、そうでないものは×でそれぞれ答えなさい。

- (1) 知識は思考の前提になり新しいものを生み出すために必要なので、知識重視の時代は今後も続くと予想できる。
- (2) 知識は基本的には過去のもので情報として古くまったたく役に立たないため、今後は「思考の時代」になるだろう。
- (3) 知識は現在も重視されているが、企業や大学ではそれだけでは結果が出ないことに気づき始めている。
- (4) 知識を与える教師も学校の勉強さえできればよいと考え、記憶競争にかり立てるような教育をするようになった。

「三」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大阪のテレビ局で働く中島は、ある朝強い地震で目を覚ます。電車は運休、約二十キロの道のりを徒歩で職場に向かう。橋のたもとに来た時、一台のトラックが音を立てて通過し、大きな振動があった。そこにいた中島には、まるで地震のように思われた。

汗が目に入り、しみた。立ち止まり、同じく汗まみれの指で拭っていると、突然足元でごうんと大きな音がして視界がぶれる。きた、と思った。地震や。

中島の脳は、一瞬のうちに二年間を巻き戻す。

おとしの六月、熊本にいた。四月の※熊本地震の発生直後から現場に詰めていた先発隊とGW明けに交代し、ビジネスホテルを拠点に一カ月間あちこち回った。土地鑑もない遠方での長期取材は日々で、肉体的にも精神的にもきつかった。毎日毎日、何かネタはないかとアンテナを立て、自らも余震にびりびりしながらほうぼう訊き回って素材と原稿をとにかく送る。※オンエアされるかされないかは考えたって仕方ない、とにかく目の前で起きていることを映して切り取る——そんなめまぐるしい日々だった。まだ混乱していた時期に報道車両がガソリンスタンドの行列に割り込んだとか弁当を買ったとかといった批判も出ていたので、とにかく現地で迷惑にならないよう細心の注意を払った。被害の大きかった益城町あたりはもう取材され尽くしていた感があり、震源から遠くへ遠くへと足を延ばしてわかったのはあまりにも広範な地震の影響だった。①いきなりどんと突き上げ、破壊し、なぎ倒し、呑み込んでしまう。その唐突で強大であつけない暴力の前に立ち尽くす他人たちを何人も見た。

どうにかお役目を果たし、くたくたになって帰宅し、久しぶりに一家で食卓を囲んだ晩のことだった。食べながら船を漕ぎそうなほど疲労困憊していた中島は②娘のひと言で冷水をぶっかけられたように覚醒した。

——取材のヘリの音がうるさくて搜索活動が難航したって、ツイッターで怒ってる人おったで。パパ、あかんやん。心臓が凍りついた。その一瞬後には煮えたぎり、爆ぜた。

——お前に何がわかるんやっ!!
箸をテーブルに叩きつけ、立ち上がった。

——どこの搜索活動が具体的にどんだけ邪魔されて、誰が迷惑をこうむったんや? そいつはどういう立場で、どういう根拠を持って言うてるんや。何がツイッターや、情報のウラ取る苦労も知らんと無責任なデマ言いつばなしにしゃがって!

お父さん、と香枝になだめられた時はもう遅かった。みるみる目を睜り、何か大きな裏切りに直面したような表情を見せた娘はすぐに顔を背け、席を立てて部屋に逃げ込んだ。明里、と声はかけたものの深追いを避けた妻がふうつとため息をつく。

——怒鳴らんでも……。

中島は黙って白飯を③かつ込んだ。そうだ、怒鳴らなくてもよかった。明里は、いつもみたいに「まいったなあ」とおっとりした反応を待っていたんだろうに。反論するにしたって、冷静に話せばよかつただけの話だ。でも④中島はどうしても我慢ができたかった。

ひどいやないか、と思った。悔しく、情けなかった。それが仕事、めしの種、と言ってしまうえば⑤□も蓋もないが、中島は※取材クルーと毎日毎晩膝を突き合わせて考えてきた。何を伝えればいいのか、どうすれば熊本の人たちの力になれるのか。当事者の人生に鮮度もヘツタクレもないのに、発生から時間が経つほどネタとしての「※引き」は落ちていく。ましてやこんな情報にあふれた時代だ。視聴者に熊本を忘れずにいってもらうため、思い出してもらうために何ができるのか。取材で出会った被災者は「よく来てくれた」と諸手を挙げて歓迎してくれた。みんな、被害の大きいところばかり紹介する、まだ足りないものがたくさんある、困っていることをよその地域に伝えてくれ……たまたま運がよかつただけだとしても、中島のもとに届いた「現地の声」はそうだった。それなりに関係を深め、半年、一年のスペインで取材させてもらえることになった相手もいる。こういう縁を繋げるのが現場で汗をかく意義だと、久しぶりの手応えを感じた。

そんな一カ月を、たったのひと言でひっくり返された気がした。

膝の裏を突かれたようにかくんと力が抜け、中島は橋のたもと付近でくずれおれてしまった。その脇を、大きな荷台つきのトラックが走り抜けていく。

【中略 考えごとの最中で不意を突かれた中島は、トラツクの振動で倒れてしまった。急いで立ち上がろうとするが暑さと疲れもあり、よろけてしまう。その様子を見ていた老人二人が、中島を公園のベンチまで誘導してくれた。】

「兄ちゃん、さつき泣いとつたやろ」

「え、いえ」

汗が目に入っただけで、と説明しようとしたらもうひとりが「そんな言うたりな」とたしなめた。ちゃうて。

「誰かていろいろあるがな、なあ。ここで休憩してまた頑張りや、身体さえ健康なら何とでもなるんやで。とにかくちよつと休み」

そうやって八個くらいあるポケットをばたばた探ったと思うと、飴あめの小袋をひとつ取り出して中島に握あめらせた。

「ほなな、あかんかったら無理せんと病院行きや」と言い残し、連れ立ってどこかへ向かう。

「しかし、健康がいつちゃんむつかしいで。俺おれの血圧教えたるか？」

「いらん、煙草たばこがまずなる」

「パチンコ行こや」「今金ないねんわ」とやりとりする彼らの背中は「駄菓子屋行こや」とはしゃぐ小学生とさして変わらなく見えた。

⑥中島は問いかけたくなる。やりたいことはありましたか、それは叶かないましたか、これからやりたいことはありますか。きつと「何言うとんのや兄ちゃん」と笑い飛ばされるだけだろう——そんなたいそうなもんなくてもな、身体さえ健康なら何とでもなるんやで、と。中島は飴の封を開ける。この暑さですこしべとついていたが溶けていないのに感心した。昔の飴はもっと品質が悪く、すぐガムみたいにぐにゃつとゆるんだものだった。のんきに飴舐なめとる場合か、もちろん思ったが、人生の先輩からのアドバイスもあつたし、すこし休まないと本当に行き倒れるかもしれない。黄色い星形の飴は、レモン味だった。まるやかな五つの角を舌先で探る。

負荷からひととき解放された足の裏はじわじわと痛みを放散している。飴の糖分が口の中に広がると全身の細胞が歓喜するのがわかった。カロリーとはエネルギーで甘みとは快楽なのだ、理屈抜きに実感する。ほっとした。疲労や焦りややりきれなさも一緒にちいさくなってくれるような一瞬の安堵あんどが中島の心に空隙くうげきをつくり、⑦今度こそ本当に泣きたい気持ちになった。ぐつと奥歯に力を込め、空を仰ぐ。※坂本九さかもときゅうか俺は、何を泣くことがあんな。中年男が歩き疲れてへばって通りすがりのじいちゃんらに親切にされて涙する、意味わからへんわ。

かるかると飴を転がし目を閉じた。雲越し、まぶた越しの、六月の光。熊本の六月は、どんな明るさやったっけ。気温は、空気の匂いは。記憶のところどころはいやになるほど鮮明なのに、思い出せない。

中島には負い目があった。※阪神淡路大震災の時、東京支社のラジオ営業にいて何もできなかったことだ。お呼びもかからず、手をこまねいているうちに東京では※地下鉄サリンというやはり※未曾有みぞうの大事件が起こり、関西の地震の情報はみるみる尻すばみになっていった。世間話で「震災の時何してた？」と訊かれて「仕事で東京に」と答える時、いつも後ろめたかった。※在阪の放送局にいながら阪神淡路大震災の恐怖を体験もせず、**A**やり過ぎしてしまった、とんでもないズルを働いたような申し訳なさが消えなかった。誰が責めるわけでもなかったし、打ち明けたとしても「しゃあないやん」で済まされる話だろう。だからこそ口にしないまま、罪悪感を胸の内側にぶら下げ続けた。触れられたくない、わかってもらいたくないことだっている。

※東日本大震災の時も出張要請はかからず、熊本に行ってくれと言われた時はやつとかと思った。⑧勝手に背負い込んだ一九九五年の負債を返せるわけでもなかったが、利息ぶんくらいは気楽になっていいんじゃないかと思った。

そんな父親の胸中など知る由もない娘が軽口を叩いたからといって激昂するのはお門違いだ、頭では理解していてもB謝れず、日にちが経つうちにどんどん関係修復のきっかけを失って冷戦状態のまま丸二年が経つ。第三者、すなわち妻による調停に期待したが香枝は「コミュニケーションくらい自分で取りなはれ」と取り合ってくれない。

中島は想像する。

もし、けさの地震がもつともっと激しかったら、死んでまうようなもんやったら、明里に謝られへんかった心残りを抱いて俺は息絶えとつたんやろか。

やりたいこともできずに死んでいく。それは何も人生における大掛かりな夢や目標だけではなくて、たとえば飲みたかったビール、セールを待っていた服や靴、そのうち見ようと※HDDに溜めていたドラマの続き、誰かに伝えるはずだった、特別でもない言葉。絶望と同じく、他人が大小を決めるべきじゃないひとりひとりの希望。ちいさな舟の積み荷。あるじを失った舟は叶わぬ願いだけを載せてどこへ流れていくのだろう。

遠く、羽音のような響きが降ってくる。

中島は思わず口の中で縮んだ歯を噛み割って目を開いた。灰一色だったまなうらの景色とさほど変わらない空に、Cへりの機影が見えた。どこの社かまではわからないが、きつと報道のヘリだ。

おるんやな。立ち上がった。大きく両手を振りたかった。そこからしか見えないものを探して目を凝らしているだろうお仲間。邪魔者のそしりを受けたヘリの音が⑨中島の気力をよみがえらせてくれる。

雲間からこぼれた陽射しを反射して※テイルローターがちかちかと光った。中島しか見ていなかったかもしれない、一瞬の輝き。道標にするには儂い、昼間の星。

おーい、頑張れよ、いろいろ言われるかもしれないけど、身体さえ健康やったら何とでもなるらしい。俺ももうちよつと頑張るわな。

よっしゃ、と両手で膝を叩き、さつきまでより大きな歩幅で踏み出した。どうして行くのか、なんて考えるまでもない。会社には仕事があり、みんなが働いているからだ。あすはどうあれ、今この瞬間は⑩泥舟の上で必死にしがみついているからだ。ご立派な「ジャーナリスト」なんていない、※マスゴミと罵られれば言い返せずへらへら笑うしかない連中にも、中島と同じような言えない後悔や痛みが必ずある。他人の後悔や痛みを目の当たりにする仕事だから。泥舟からおさらばしていくやつらの中にも、それ

は確かに降り積もっている。

寄り添う、傷を舐め合う、そんなのは気持ち悪い。人さまの不幸でめしを食っている分際で嘆いている場合じゃない。ただ波に揉まれ、しぶきを浴びながら無様にそれぞれのオールで漕ぐしかない。

飴はすっかり溶けきってしまった。でも甘酸っぱい星の余韻が、まだ中島に力をくれる。

— 穂ミチ『砂嵐に星屑』所収「〈夏〉泥舟のモラトリアム」による —

(注)

※熊本地震：二〇一六年四月、熊本県熊本地方における地震。益城町では震度七を観測した。

オンエア：放送の内容が電波に乗ること。

取材クルー：「クルー」とは、共同の作業をする一団のこと。

引き：相手の興味を引く力のこと。

坂本九：昭和時代の日本の歌手。「上を向いて歩こう」というヒット曲がある。

阪神淡路大震災：一九九五年一月、淡路島北部を震源とする地震。神戸では震度六を観測した。

地下鉄サリン：一九九五年三月、東京都心を走る電車内で猛毒のサリンがまかれた無差別テロ。

未曾有：今までに一度もなかったこと。

在阪：大阪に拠点を構えていること。

HDD：ハードディスクドライブの略。テレビ番組の録画などに使われる。

テイルローター：ヘリコプターの機尾付近に装備された回転部分。

マスゴミ：「マスコミ」と「ゴミ」をかけ合わせた蔑称。

問一 傍線部①「いきなりどんつと突き上げ、破壊し、なぎ倒し、呑み込んでしまう」に見られる表現の特徴を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬態語で表現している部分がある。

イ 倒置法を用いている。

ウ 直喩表現がある。

エ 擬声語で表現している部分がある。

オ 擬人法を用いている。

カ 隠喩表現がある。

問二 傍線部②「娘のひと言」とあるが、娘はどのようなつもりで発言し、中島はどのようにそれを受け止めたのか。五十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部③「かつ込んだ」は「かき込んだ」が元の形である。このような変化を音便というが、その種類を答えなさい。

問四 傍線部④「中島はどうしても我慢ができなかった」のはなぜか。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 実際には被災者から感謝され、取材を受けることを歓迎されていた事実を娘が全く知らなかったから。

イ 家族には自分の苦労を理解してもらえらるといふ自分の気持ち、娘は一言で裏切ってしまったから。

ウ 被災地で迷惑をかけないように細心の注意を払っていたのに、娘は簡単にデマを信じてしまったから。

エ 広範囲に広がる被災地で、肉体的にも精神的にも疲れていたのに、娘が自分に強く反発してきたから。

問五 傍線部⑤「□も蓋ふたもない」とあるが、「直接すぎて話の続けようがなく、取り付く島もない」という意味になるように空欄に漢字一字を入れなさい。

問六 傍線部⑥「中島は問いかけたくなる」とあるが、このように問いかけたくなった理由を説明した次の文の空欄に入る言葉を、これより後の文中から十五字以内で抜き出しなさい。

中島はこの時 を感じていたから。

問七 傍線部⑦「今度こそ本当に泣きたい気持ちになった」のはなぜか。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一休みし、飴を舐めてエネルギー補給ができたが、かえって疲れが実感され、このまま歩き続けることを考えるとうんざりしたから。

イ 一休みし、飴を舐めてエネルギー補給ができたが、老人たちの親切な行いに対して何もお礼できない自分が、いつそう情けなかったから。

ウ 一休みし、飴を舐めてエネルギー補給ができたおかげで、今までの人生に悔いはないという達成感と感謝の気持ちがわきあがったから。

エ 一休みし、飴を舐めてエネルギー補給ができたおかげで、考え込んでいた中島の心に人の優しさを感じる余裕が生まれ、心にしみたから。

問八

A C に入る語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア しっかり イ すんなり ウ のうのうと エ ぼつんと

問九

傍線部⑧「勝手に背負い込んだ一九九五年の負債を返せるわけでもなかったが、利息分くらいは気楽になっていいんじゃないかと思つた」とあるが、ここでの中島の気持ちを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 熊本地震で人の役に立てたうえに、東日本大震災でも東京から支援できたことに対する満足感。
イ 熊本地震では報道陣の迷惑行為があつたが、個人的には被災者から感謝されたのだという自負心。
ウ 阪神淡路大震災では何もできなかったが、熊本地震では少しは役に立てそうだという安堵感。
エ 阪神淡路大震災でズルを働いたうえに、東日本大震災でも何もできなかった自責の念。

問十

傍線部⑨「中島の気力をよみがえらせてくれる」とあるが、それはなぜか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 邪魔者扱いされるヘリの音だが、自分にとっては報道の仕事が正しくなされていることを知らせてくれる証明のようなもので、初心を思い出させるものだったから。
イ 邪魔者扱いされることもあるのがわかつているにも関わらず、ヘリを現場に向かわせる会社があることがわかり、自分も負けられない気持ちになつたから。
ウ 邪魔者扱いされることを嫌がり辞めていく人が多い報道の仕事だが、まだ自分と同じようにその辛さに耐えている仲間がいることがわかり、嬉しかったから。
エ 邪魔者扱いされたヘリの音だが、報道する立場だからこそ見えるものがあることを再確認し、同じような痛みを感じながらも働く者がいることに勇気をもつたから。

問十一

傍線部⑩「泥舟」に重ねられているイメージとして**不適切なもの**を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 不安定で頼りない。 イ もろく壊れやすい。
ウ 未熟で稚拙である。 エ 強さや耐久性に欠ける。

